

地域調査とGIS

地域調査士と GIS 学術士のためのニュースレター

12 号

2020 年 12 月
(公社) 日本地理学会
資格専門委員会

・巻頭言	宇根 寛	 1
・地域調査/GIS 分析の現場		
統計実務と GIS 分析	草野 邦明	 2
・地域調査士養成の取り組み (第 8 回)		
地域調査と地理情報への取り組み – 専修大学文学部環境地理学科 –	熊木 洋太	 3
・ミニ講座 調査・分析のレンジを広げる (第 2 回)		
ドローンで空撮した画像の解析	田中 圭	 6
・Zoom 講習会について		
2020 年度 第 1 回地域調査士講習会 (オンライン開催) を振り返って	矢ヶ崎 太洋	 7
・短信 資格取得者からいただいたお便り		
南京で日本を考える毎日	郷原 裕生	 8
・委員会からのお知らせ		
2020~2021 年度委員一覧		 9
「専門地域調査士」の更新手続きについて / 投稿を歓迎します		 10

巻頭言

GIS 学術士認定委員会委員長 宇根 寛 (専門地域調査士・技術士)

今ほどあたりまえに地図が使われている時代はなかっただろう。今や、地理空間情報は空中に飛び交うものになり、だれもが意識しないうちに発信するものとなった。また、2022 年度からすべての高校生が履修することになる「地理総合」においては、地図と GIS の活用が 3 本柱のひとつと位置付けられている。地図や GIS は地理学徒の専売特許ではなくなってきたのである。こんな時代に、公益社団法人日本地理学会が認定する GIS 学術士の意義は何なのだろうとふと考えてしまうことがある。そんな時には、こんな風に考えることにしている。これほど地理空間情報が身近にある時代でありながら、人々の地理的リテラシーは確実に低下している。ネットで検索すれば、いきなり目的地周辺の詳細な地図が現れ、そこまでは、何駅で何線に乗って何分後に何駅で何線に乗り換えて何駅で降りなさい、ときわめて正確にスマホが教えてくれたり、次の交差点で右折、とか、5km 以上道なりです、などと、カーナビがいていねいに指示してくれたりするので、目的地の方向や現在地と目的地の間がどうなっているか、そこに行くまでにはどんな風景の中を進んでいくことになるのか、といった、単に目的地までたどりつくだけのためには「余計」な、でも、移動の楽しみを何倍にも増してくれる情報に関心を持つ人が少なくなってしまった。そんな中では、GIS の高度な機能を自在に使いこなすことができなくても、対象とする地域の広域の中での位置付けを考え、周辺とのさまざまな関係性を調べて、それを地図に表すことができる人が、GIS 学術士なのではないだろうか。

統計実務と GIS 分析

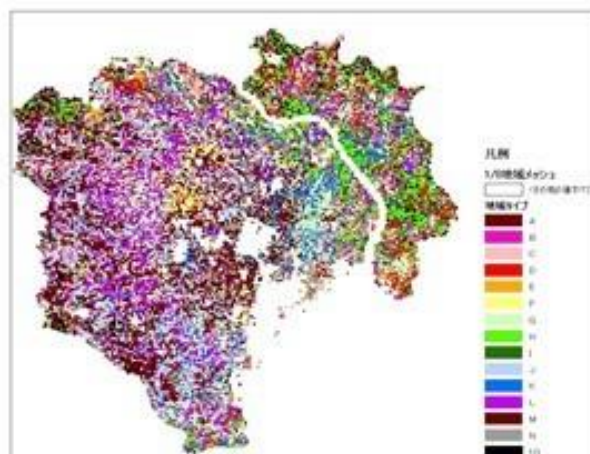
草野 邦明（（公財）統計情報研究開発センター・GIS 専門学術士）

私は 2009 年から現在の職場である公益財団法人統計情報研究開発センター（以下、センター）の研究員として勤務している。センターの事業内容として、①調査・研究・開発事業、②普及・啓発事業、③コンサルティング・統計データ処理等事業、④その他公益事業が挙げられるが、上記の事業に係る GIS を用いた統計実務を分担している。以降では、各事業のうち GIS に関連する業務内容について紹介する。

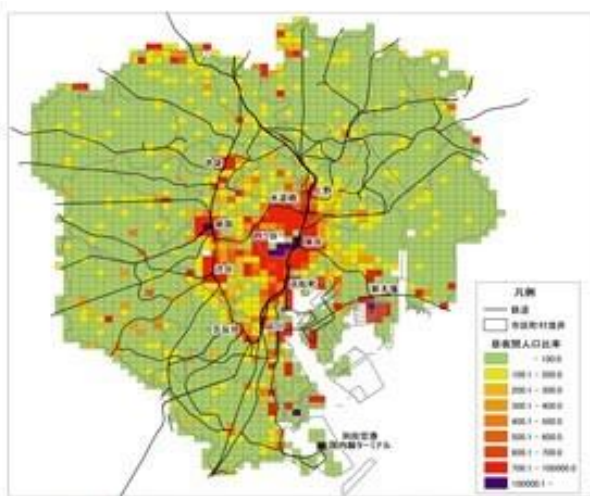
第一に、調査・研究・開発事業は、統計情報並びに情報通信技術及び情報処理技術を活用した調査・研究・開発を行っている。現在進めている研究は、①国勢調査小地域統計データを利用した統計地図作成方法の検討並びに東京都区部及び周辺部における人口分析やその手法に関する研究、②地域メッシュ統計データを用いて地域分析を行う際の分析手法に関する研究、③平成 27 年国勢調査 8 分の 1 地域メッシュ統計の高度利用に関する研究である。いずれの研究も公的統計における小地域単位の大量のデータを処理、分析、表示する必要があることから、必然と GIS を利用することになる。また、分析の過程では統計処理、表示ではマッピングの知識が必要となることから、学生時代に学んだ地理統計処理や地図学が大いに役に立っている。

次に、開発においては、「平成 27 年国勢調査 8 分の 1 地域メッシュ統計」（以下、1/8 メッシュ）や「平成 27 年国勢調査、平成 26 年経済センサス－基礎調査等のリンクによる地域メッシュ統計」（以下、リンクメッシュ）などに代表されるセンター独自の統計データの作成が挙げられる。地域メッシュ統計は、緯度・経度に基づき地域を網の目（mesh、grid）に分けて、それぞれの区域に関する統計データを編成したものであるが、同じ小地域統計データである町丁・字等別集計や基本単位区集計とは異なる特性、すなわち、行政界の変更等の影響を受けない、時系列比較が可能、全国のメッシュ区画はほぼ同じ面積であることから地域間の比較が可能といった利点がある。1/8 メッシュは一辺が約 125m の区画であり、従来の町丁・字等別集計と比較して東京都 23 区では 10 倍以上の精度（39,842 地区）で現象を捉えることができる。さらに、リンクメッシュは、総務省統計局の「平成 27 年国勢調査に関する地域メッシュ統計」、「平成 26 年経済センサス－基礎調査に関する地域メッシュ統計」と、「地域メッシュ別生徒・学生数のデータ」を利用して、地域メッシュ別の昼間人口などを推計している。昼間人口は、国勢調査従業地・通学地集計結果から都道府県別、市区町村別に把握できるが、小地域単位では把握できないことから、本データの持つ意義は大きいと言えよう。以上の統計データは空間データとしての側面も持つことから GIS 上での作業が必須であり、プログラムを組み、処理するといった作業を経ている。

第二に、普及・啓発事業では、統計情報の多角的有効利用を促進するため、統計情報及び統計理論・技術に関する



東京都 23 区における居住地区分類
（1/8 メッシュより作成）



東京都 23 区における昼夜間人口比率
（リンクメッシュより作成）

知識の普及・啓発を実施している。特に、センターでは、GIS と統計情報を一体的に利用する「統計 GIS」についての理論、技術開発及び応用に関する活動を奨励するため、統計 GIS 活動の奨励及び G-Census の開発・コンテストを実施している。G-Census とは、センターが開発した統計 GIS ソフトであり、国勢調査を始めとする統計データと町丁字等までの地図データが収録されている。これにより、全国の都道府県、市区町村、町丁字等の統計データや人口ピラミッドの表示、表やグラフ、塗り分け地図により複数の地域との比較を簡単に行うことが可能であり、空間的分布と傾向を明らかにすることができる。

第三に、コンサルティング・統計データ処理等事業では、各種統計データの情報処理及び統計情報に関するコンサルティングを行っている。代表的なものとして、統計データ処理と統計講師の派遣が挙げられる。統計データ処理の一例として、「平成 27 年国勢調査地域メッシュ統計編成用同定データ作成」や「平成 26 年経済センサス-基礎調査地域メッシュ統計編成用同定データ作成業務」などが挙げられ、これらの業務では統計データ及び空間データの収集、保存、更新、変換、表示するといった一連の過程を GIS 上で行っている。

さらに、統計講師の派遣では、省庁及び地方自治体の統計職員・統計調査員に対して、統計調査の基礎知識、統計集計、標本理論、統計データの利活用等について研修を実施している。中でも、統計データの利活用に関する研修依頼は多く、日頃から当たり前のように作成している統計地図は高い関心を得ており、やり甲斐と同時に普及の在り方について考えさせられる。

最後に、その他の公益事業では、JICA の技術協力プロジェクトや統計に関する国際交流に対して支援・協力を行っている。近年では、センターによるモンゴル国家統計局支援事業、JICA によるネパール中央統計局能力強化プロジェクト及び JICA によるエジプト中央動員統計局における統計情報の質向上プロジェクトの一環として、GIS 及び統計地図に関して、年に数回ほど現地へ出張し、職員の技術協力・支援を行っている。

以上のように、センターの業務では GIS は必要不可欠であり、学生時代に培った知識や技術が業務に直結している。また、地理学を通じて GIS を学んだことは今日大きな財産となっており、空間的思考力や人文科学・自然科学に問われない分野横断的な発想力は、統計実務においても他者と一線を画し、時に大きな強みになっている。

残念ながら GIS 学術士、GIS 専門学術士は他の資格と比較して知名度がやや劣っていることは否めないが、裏を返せば資格取得者の活躍如何によっては重要性が高まると考えられる。微力ながら日々精進し、活躍することで職場と社会へ貢献し、ひいては GIS 学術士、GIS 専門学術士の価値を高められるよう努めたい。



地方自治体での講師の様子

資格取得者養成の取り組み 第 8 回

地域調査と地理情報への取り組み – 専修大学文学部環境地理学科 –

熊木 洋太（専修大学・専門地域調査士）

専修大学は 2020 年で創立 140 年になる。1966 年に文学部が創立され、文学部人文学科内の 1 コースとして地理学コースが設けられた。2001 年に地理学コースは人文学科環境地理学専攻として半ば独立し、2010 年には完全に独立した環境地理学科となった。専任教員数は 9 名である。本学科は、地域調査士、GIS 学術士資格制度発足当初より両資格の科目認定校となっている。認定科目は 4 ページの表に示すとおりである。また、大学院文学研究科地理学専攻は専門地域調査士、GIS 専門学術士の科目認定校にもなっている。

専修大学文学部環境地理学科の資格認定科目

地域調査士			
種 別	科目名	必修／選択	配当年次
a. 地域の概念を扱う科目	環境地理学概論及び調査法	必修	1
b. 日本の地域特性を扱う科目	農村環境学 1	選択必修	2・3
	歴史環境学 1	選択必修	2・3
	都市環境学 1	選択必修	2・3
	地誌学 2	選択必修	2～4
c. 地域の自然的特性を扱う科目	自然地理学概論 1	選択必修	1・2
	自然地理学概論 2	選択必修	1・2
	地域生態学 1	選択必修	2・3
	地形環境学 1	選択必修	2・3
	気候環境学 1	選択必修	2・3
d. 統計処理に関する科目	人文環境学調査法 2	選択必修	2・3
	人文環境学調査法 4	選択必修	2・3
	自然環境学調査法 1	選択必修	2・3
e. 地図に関する科目	環境地図学 1	選択必修	2・3
	測量学実習	選択	2～4
f. フィールドワーク	野外調査法 1	必修	2
GIS学術士			
種 別	科目名	必修／選択	配当年次
【A】GISに関連する情報処理を中心とする科目	情報入門 1	選択	1
	情報入門 2	選択	1
	専門入門ゼミナール	必修	1
【B】GISの基本的機能と空間データの講義を中心とする科目	空間情報学 1	選択必修	2・3
	空間情報学 2	選択	2～4
【C】GISによる地図作成・空間分析の実習を中心とする科目	地理情報システム実習 1	選択	2～4
	地理情報システム実習 2	選択	2～4
【D】GISを利用した卒業論文を執筆する科目	ゼミナール 2・卒業論文	必修	4

学科の特色：9名の専任教員（人文地理学5名、自然地理学4名）で地理学の多くの部分をカバーしているが、非常勤講師が担当する科目も含めて、専門科目として57科目130単位分の科目が開講され、地理学の諸分野を網羅している。学生はこのうち必修科目24単位、選択必修科目（一定の科目群の中から一定数以上選択しなければならない科目）24単位を含め、78単位以上を取得することが卒業要件になっており、幅広い科目の中からかなり自由に選択することができる。学生の入学定員は55名（2021年度）である。専任教員はそれぞれゼミを持っていて、学生は3年次からどれか一つのゼミに所属する。専任教員一人当たりのゼミ生は1学年で5～8名程度であり、私立大学の文系学部学科としては、かなり少人数での教育を実践していると言える。

卒業論文は、必須の卒業要件として課せられている。4年生は、2回の中間発表会と提出後の最終発表会で論文内容を発表しなければならない。この3回の発表会は学内公開で行われ、専任教員は全員参加する。最終発表会は口頭試問を兼ね、評価は全専任教員の合議で決められる。このようなことから、普段の指導は各ゼミ中心で行われるものの、ゼミの垣根にこだわらず指導する雰囲気がある。

取得できる資格としては、大学全体で対応している教職（環境地理学科では中学校社会科、高等学校地理歴史科・公民科）、司書、司書教諭、学校司書、学芸員と、環境地理学科特有の測量士補、地域調査士、GIS学術士がある。

地域調査力の養成：多くの科目が認定科目としてふさわしい内容になっていて、学生は極端に偏った科目選択をしない限り、自然に地域調査士資格に必要な科目を履修することになる。「地域調査実習に関する科目」として認定されているのは、2年生の必修科目「野外調査法1」である。この科目では、4名の専任教員がそれぞれ十数名の学生を受け持ち、2～3泊程度の現地調査を行う。学生は、フィールドワークとは何かということとその方法を学び、自分の調査テーマを決め、事前準備を行った後に実際にフィールド調査を行い、その結果を論文形式のレポートにまとめ、プレゼンテーションを行うこととしている。最後には、4クラス合同の発表会も行う。多くの学生が、自分は成長した、と実感する科目となっている。

このほか、3年生を対象にした「野外調査法2」が選択科目として設けられている。また、「～調査法」という名の実習科目の中で日帰り巡検を行ったり、ゼミの活動として合宿形式や日帰りでフィールド調査を行うことも多い。

GIS 技能の養成：GIS の名を冠した科目は2002年から存在していたが、それだけでGIS 学術士資格制度の要求を満たしていなかったため、当初は他の科目と合わせて認定科目としていた。2010年に環境地理学科となったときのカリキュラム改正で、GISに関する科目として「空間情報学1」「空間情報学2」「地理情報システム実習1」「地理情報システム実習2」の4科目が選択科目として位置づけられた。このほか、「～調査法」という名の実習科目や、地図学、リモートセンシングなどに関する科目でもGISに関する教育が行われている。

本学においては、学科専用のスペースを新たに得ることは簡単ではないが、上記カリキュラム改正に合わせて、「地理学空間情報処理室」という部屋を獲得することができた。この部屋は狭いながらもArcGISなどが使えるパソコン数台と周辺機器があり、学生が自由に利用できる。週3日（時期によっては4日）テクニカルスタッフが駐在し、学生がアドバイスを受けられる体制も構築されている。

コロナ禍の対応と課題：2020年度は、新型コロナ対応のため、前期はほぼすべてオンライン授業となり、巡検は全く実施できなかった。この原稿執筆時点（2020年9月）では、上記の「野外調査法1」「野外調査法2」の現地調査は、後期期間に日帰りで何回かに分けて行う計画となっているが、密を避けながらどのように効果的に実習を行うかを模索していくことになる。GIS関係の科目は、後期はオンライン授業と対面授業を組み合わせながら進めていくことになっている。

今回、入学したての1年生に対しては、オンライン授業の中でバーチャル巡検を試みた。時間を決めてGoogleのストリートビューを見るように指示した後、その場所に関するクイズ形式の質問に答えさせたり、資料を見せて考えさせたりした。学生からは、可能になったらぜひその場所に行ってみたいという声が多く、評判は良かったようである。

中長期的には、学生の地域調査力強化のため巡検の機会を増やすことが課題となっている。このため、次期のカリキュラム改正の時期に、新たな正規の科目として「地理学エクスカージョン」を毎年複数回実施するように位置づけることを計画している。



ドローンで空撮した画像の解析

田中 圭（（一財）日本地図センター・専門地域調査士）

前回はドローンの飛行に関するルールを中心に紹介しました。今回はドローンで空撮し、それらの画像から 3D データを作成する解析事例を紹介していきます。前回でも書きましたが、2014 年頃からドローンの普及が進みましたが、それと同時期に撮影した画像から簡単に 3D モデルを作成することができる「SfM(Structure from Motion)-MVS(Multi-View Stereo)」の普及が、ドローンの利用シーンを大いに拡大させました。3D モデルからは DSM (Digital Surface Model：地表面の高さ) やオルソ画像（レンズや地形による歪みを取り除いた画像）を作成することも可能です。

2014 年頃のドローンは、ドローンの機体と撮影するカメラはそれぞれ別々であることが多かったため、ユーザー側で空撮に適したカメラを用意する必要がありました。しかし、現在はドローンとカメラが一体になっている機種が多く市販されるようになりました（例えば、DJI 社の Phantom4 や Mavic2 など）。これらの機種は、飛行中でもスマートフォンやタブレットでリアルタイムに上空からの様子を見ることができ、好きな構図で撮影することができます。また、地図作成に必要な重複のある飛行コースも設定でき、オートパイロットで空撮も可能です。

ドローンで空撮した画像は、「SfM-MVS」を用いて解析することで、さらに利用価値を高めることができます。「SfM-MVS」はコンピュータビジョン分野で既に確立されたもので、この技術を搭載しているソフトは専門的な知識がなくても 3D モデルが作成できるようになっています。ソフトは有償から無償（例えば、VisualSFM など）なものまでありますが、画面表示や操作方法、価格など総合的に考えると、Agisoft 社の「Metashape (旧 Photoscan)」がおすすめです。私の周りでは「Metashape」ユーザがほとんどです。Metashape には 30 日間のお試し期間がありますので、購入する前に実際に触れてみるのがいいでしょう。（アカデミック価格で約 10 万円、通常価格なら約 50 万円）。

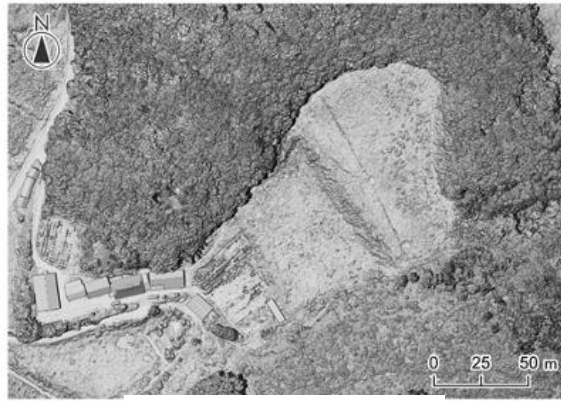
ドローンで空撮した画像を使って SfM 処理（複数枚の画像からカメラの撮影位置を相対的に推定する処理）を行います。この際に、基準点の位置座標（緯度・経度・高さ）がわかれば撮影した画像に付与していきます。わからなくても 3D モデルは作成できます。次に MVS 処理（カメラの撮影位置から三次元形状を復元する処理）の工程では、撮影した対象物の形状を立体的に復元し 3D モデルが完成します。必要に応じて、3D モデルから DSM やオルソ画像を出力することもできます。

解析事例：山間部でドローン空撮（福島県川俣町山木屋地区）

山間部での飛行は、平野部に比べていろいろと制約や注意することがあります。まずは、離着陸地点を探し出すところから始まります。計測する場所によっては、山奥に入らなければならないことがあります。ドローンを安全に離陸させるためには上空の空間が広がっていて、水平な場所を見つけなければなりません。夏季では雑草が覆い茂っていることが多いので、草刈り用の鎌を持参すると役に立ちます。次に、山間部での飛行コースを設定する際に注意しなければならないのは対地高度の入力になります。飛行コースを設定するソフトは、離陸地点の高さを基準に対地高度で計算しています。そのため、谷からドローンを離陸させる場合は、尾根の高さ＋樹木の高さをよく判断した上で入力を行わないと衝突する危険があります。一方、尾根から離陸する場合は地面との衝突の可能性は低いのですが、対地高度が地形に沿って変化するので改正航空法で明記されている対地高度 150m 以上にならないように注意する必要があります。山間部での地図作成は、樹冠も含んだ DSM の作成にもなります。樹冠とドローンの対地高度が低いと SfM-MVS でマッチングできない場合があり、高品質な地図（DSM、オルソ画像）を作成することができません。私の経験上、樹冠との対地高度を 40m 以上に設定すると地図を作成できることがわかってき



i)オルソ画像



ii)陰影図(DSM)

福島県川俣町山木屋地区のオルソ画像と陰影図

ました。写真は前述の内容に留意した上で、空撮した数百枚の画像から解析したオルソ画像（解像度 3 cm）と陰影図（解像度 6 cm）になります。一昔前まででは、考えられなかった超高解像の地図を個人の力だけで作成できるようになりました。現在は、更に高機能な RTK-GNSS 搭載ドローンの登場など日々進化しています。

Zoom 講習会について

2020 年度 第 1 回地域調査士講習会（オンライン開催）を振り返って

矢ヶ崎 太洋 （東京都立大学）

今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、世界中が大混乱となっている。大学や学会も例外ではなく、授業や会議のオンライン化やデジタル化を推進せざる負えない状況にある。日本地理学会でも、今年度の第 1 回地域調査士講習会は法政大学での開催を断念し、初めての試みとして Zoom によるオンラインで開催することになった。具体的な講習会の流れとしては、参加希望者は「こくちーずプロ」を通して登録し、当日は自宅から Zoom で受講する。受講者は Google Form による理解度確認テストを合格すると、地域調査士の認定申請の条件を満たすことになる。当日は資格専門委員会事務局の所在する日本地図センターの会議室を借りて本部を設営し、Zoom の管理、講習会の司会、理解度確認テストの管理を実施した。講師の先生方にはご都合の良い方法を選択いただき、4 名の講師の内、2 名が本部から、2 名はご自宅やオフィスから講義を配信していただいた。

初めての試みとなった地域調査士講習会のオンライン講習会は、ほぼ満員の参加者に恵まれ、盛況のうちに終わることができた。講師の先生方や受講者は大学や職場で Zoom などを使用しているようで、手慣れた雰囲気を感じた。また、参加者は広島大学、島根大学、滋賀県立大学など、東京開催では参加の難しい大学の学生が多く、8 ページの表に示すように、実施したすべての講習会において地方からの参加者が増えるといったオンライン化による恩恵が認められた。また、Google Form による理解度確認テストも問題なく実施でき、正答率も例年と同様であったことから、講習の効果は対面による形態と変わりがないと考えられる。特に、Google Form を利用することで、採点スピードが向上し、業務の効率化を図ることができた。ただ、オンライン形式による講習会には対面形式の良さが反映されにくく、今後の講習会で講師の先生方や受講者の負担となる可能性は否めない。オンライン形式には

様々なメリットが存在するので、これをうまく活用することにより、新型コロナウイルスと共存した地域調査士講習会が実現できるであろう。

地域調査士講習会の受講者内訳

	2020年度		2019年度	
	関東地方 (東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)	その他	関東地方 (東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)	その他
第1回(地域調査士)	65	23	85	0
第3回(地域調査士)	48	35	0	29
第4回(地域調査士)	32	16	115	1
計	145(66%)	74(34%)	200(87%)	30(13%)
第2回(専門地域調査士)	4(40%)	6(%)	9(69%)	4(31%)

資料:『地域調査士講習申込書及び申込データ』より資格専門委員会事務局 南 作成

短 信 資格取得者からいただいたお便り

南京で日本を考える毎日

郷原 裕生 (南京郵電大学外籍教師・地域調査士)

「南京地铁〇〇号线(在建)」。この表示を中国の地図アプリでよく目にする。すでにたくさん的高層建築や地下鉄があるというのに、この都市はまだまだ成長の勢いを緩めようとはしない。南京に渡って1年半、毎日が驚きの連続である。

私が勤務している南京郵電大学外国語学院(学部)日語系(学科)は、中心部から地下鉄で30分ほどの郊外にある。日語系には4学年8クラス240人ほどの学生が在籍しており、それを中国人教員10名、日本人教員(外籍教師)3名の体制で授業やサポートを分担している。私は2018年夏に着任してから、少ないながら地理や地域調査の経験を活かせないか、通常授業の傍ら模索していた。これまで、会話や聴解、基礎作文などの授業を担当してきた。これらの科目はいずれも必修科目であり、学期中に実施される日語專業試験や日本語能力試験などを踏まえた授業内容が要求されている。さらに日本人教員には、学科で選抜された学生と共にスピーチやアフレコの大会に参加し、そこでの好成績も期待されている。

このように、毎日の授業や活動では具体的な目標が定められている。その一方、テーマや内容を自由に設定できる「学習センター」という時間がそれぞれの日本人教員に用意されている。学科には日本の小説やアニメといった日本文学や日本文化をはじめ、観光地などにも興味を持っている学生も多い。そこで、前学期はこの時間で日本の地形や気候、文化などをテーマに設定し、それぞれの特徴をクイズ形式にして共有するといった活動を行なった。また、一部の学生と食べ歩きをした際に得たヒントを頼りに、担当する地下鉄駅を学生に割り振り、その付近の飲食店を紹介する活動を作文の授業で実施した。南京には地元の蘇浙料理だけでなく国内各地の料理を売りにした飲食店が多く、今度は他の料理店にも行ってみたいと感想を紹介した学生もいた。



南京郵電大学日語系の学生と共に(筆者は前列左から二人目)

以上のような活動の中で、学生たちは様々な事象を取り上げて紹介してくれた。そこでは、新しい日本・新しい南京の発見を学生たちと一緒に共有できたと感じている。今後も、日本や身近な南京という場所をテーマに、地理や地域調査の力を借りて日本語に対する学生のさらなる興味関心の向上に貢献していきたい。

委員会からのお知らせ

■2020～2021 年度 資格専門委員会委員

氏名	所属
秋元菜摘	静岡大学
草野邦明	公益財団法人統計情報研究開発センター
小原文明(副委員長)	法政大学
佐々木明彦	国士舘大学
鈴木重雄	駒澤大学
関根智子(委員長)	日本大学
高田明典	一般財団法人日本地図センター
田中耕市	茨城大学
土田雅代	ESRI ジャパン株式会社
中岡裕章	日本大学
任 海	日本大学
根田克彦	奈良教育大学
藤田和史	和歌山大学
松井幸一	関西大学
森本健弘(副委員長)	筑波大学
矢ヶ崎太洋	東京都立大学

■2020～2021 年度 地域調査士認定委員会委員

氏名	所属
佐野充(委員長)	日本大学
伊東 理	関西大学
菊地俊夫	東京都立大学

■2020～2021 年度 GIS 学術士認定委員会委員

氏名	所属
宇根 寛(委員長)	国土地理院
熊木洋太	専修大学
鈴木厚志	立正大学
塚田野野子	株式会社東京地図研究社
森田 喬	法政大学名誉教授

「専門地域調査士」の更新手続きをお忘れないように

「専門地域調査士」は10年ごとの更新が必要になります。『地域調査士通信10号』でご案内しましたが、この10年間の地域調査の実務経験、集会等での発表、論文や報告等の執筆のいずれかを行ってのことをご報告のうえ、更新の手続きを忘れないように行ってください。よろしくお願いいたします。地域の健全かつ持続的な発展に寄与するために、公益社団法人日本地理学会が地域調査のプロフェッショナルとして「専門地域調査士」を認定し、公表しています。地域調査の専門家を社会に広くお示しする制度は、日本地理学会の公益性、社会的責務として実施している公益事業ですので、ご理解ください。また、各大学の学部教育で、「地域調査士」を取得可能資格として設定する大学が増えています。単位認定大学に「専門地域調査士」の教員がいることは、卒業論文認定などの面で、学部生にとってスムーズな取得につながります。そのため、近年は、教員公募時に「専門地域調査士」の有資格者を公募要領に明示する大学も出始めています。「専門地域調査士」をキャリアのパスポートとして今後も機能させるためにも、更新手続きを忘れないように行ってください。資格専門委員会のホームページに、更新フローや更新に必要な書類の様式などを2020年度の初めにはアップしますので、よろしくお願いいたします。

本誌への投稿を歓迎します

読者の皆様からの本誌への投稿を歓迎いたします。資格専門委員会事務局まで原稿をお寄せください。以下の原稿を随時受け付けておりますので、奮ってご投稿ください。

◆地域調査・GIS分析の現場（図や写真のスペースも含めて3600字）

地域調査士やGIS学術士に関連した仕事や諸活動の内容紹介、あるいは仕事や活動を経験する中で感じたことや考えたことを書いていただくものです。

◆ミニ講座 調査・分析のレンジを広げる（図や写真のスペースも含めて1800字）

調査や分析に役立つ手法や資料に関する紹介。必ずしも最新情報である必要はなく、入門者向けの情報提供も歓迎します。

◆フィールドでのあれこれ(800字)

地域調査時やGIS作業中に起きた思いがけない体験、心温まる話、教訓となるような失敗談・失敗未遂談など。

◆短信（250字以内）

近況の報告。

編集後記

「地域調査士通信」第12号をお届けします。本号ご執筆いただきました方々には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。コロナ禍の日々ですが、それぞれが工夫を凝らし、地道に地域調査やGISの技術習得に励む情報が入ってきます。まさに、今が我慢のしどころ。これからも、本誌を皆様の情報交換の場として活用いただければ幸いです。

（第12号編集担当：草野邦明・鈴木厚志・関根智子・南春英）

■地域調査とGIS 第12号■

発行日：2020年12月15日

編集・発行：(公社)日本地理学会資格専門委員会

住所：〒153-8522 東京都目黒区青葉台4-9-6

E-mail: meguro@ajg-cert.jp

電話 & Fax: 03-6416-8683